

かえってきたコロ

中部小・2 ふくおか りょう

ぼくの夏休みは、おばあちゃんの家ですごくすことがよくある。お父さんとお母さんがしごとをしているので、おばあちゃんの家ですばんをする。

おばあちゃんの家は、のう家で家ぞくが多い。みんなでしごとをしているので、家とはたけを行ったり来たりする。ぼくは、しゅくだいをしたり、ゲームをしたり、お手つだいをしたりしてすごす。

「くつをそろえてほしいな。」

「コロがよんだら、さん歩に行つてね。」

「これでそうじをして。」

おじいちゃん、モップをわたして出かけて行った。

おるすばんの中で一ばん楽しいのはコロとあそんでいるとき。コロは十二才のしば犬でとても元気なぼくの家ぞくだ。山道をコロといっしょに走ったり、公園であそんだりする。中でも、おばあちゃんの家のある小さい川に入つてさん歩するのが一番楽しい。いっしょに入つて水をかけてたくさんあそぶ。また、川をすすむとたきがあり、のぼったり下りたりすることができる。コロとたんけんをしているようで、何より楽しい。

川からかえつて、家の中で体をかわかして休んでいたとき、じけんがおきた。みんながはたけからかえつてきて、コロはさん歩へ行きたくなったのか、いすから下りた。コロの毛がおちるので、ぼく

はおじいちゃんにたのまれたモップをかけようと思った。コロを外へ出すため、くさりをはずした。

「あ、にげた！」

コロはげんかんにむかつて走つていった。おばあちゃんがつかまえようとしてくれたけれど、コロがすばやくうごいたので、つかまえられず、外へ走つて行つてしまった。

みんなに声をかけて、コロをおいかけた。近づくのにげてしまい、ぼくが走つてもおいつけなかった。そして、おいかっこをしているうちに見うしなつてしまった。

ぼくは、コロといっしょに歩いていたさん歩道をさがすことにした。それでもコロは見つからなかった。つぎに、おばあちゃんのはたけにむかう道をさがしたが、コロを見つけることはできなかった。このままコロがいなくなっちゃたらどうしようと、ふあんな気持ちでいっぱいになった。その後も、一生けんめいさがしたけれど、見つけることができなかった。心ばいな気もちがどんどん大きくなつていった。

「妹のおむかえに行く時間になったからいったんもどろう。」

お母さんといっしょにおばあちゃんの家にもどることにした。もうコロとあそぶことができないなんてさみしいな。そんなことを考えながら歩いていると、コロを見つけた。

「お母さん、コロがいたよ。そっちからつかまえて。」

コロの体は大きくて、ぼく一人ではつかまえることができないので、お母さんとはさみうちにした。お母さんが、

「帰つておいで。」

と言うと、コロはお母さんの方に走つていった。

「ああ、かえってきてよかった。」

とてもうれしかった。これでまたコロといっしょにあそぶことができる。でもたくさん走ったので、ぼくのよこっぱらはいたかった。

今年の夏休みはおばあちゃんの家で、バーベキューや花火をした。もちろんコロもいっしょだ。花火はきらいだから近づいてこなかったけれど、とても楽しかった。コロはぼくにとって大切なかぞく。これからはぜったいにはなさないからね。またたくさんあそぼうね。